



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	公営住宅の日本人から見た外国人
Author(s)	都築, くるみ
Description	第2部 公営住宅の日本人と外国人 : 愛知県豊橋市県営A団地を事例として
Relation	地域生活における外国人と日本人の関係. 小内透編. (外国人集住地域の社会学的総合研究 ; その7)
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 27, 31-42
Issue Date	2009-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38189
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_p31-42.pdf



公営住宅の日本人から見た外国人

都築くるみ

第1章 豊橋市の外国人集住について

これまで、外国人の集住している地域についての研究が蓄積されてきた。本研究グループでは、群馬県大泉町と豊橋市の住民に対する調査で、日本人住民と外国人住民との関係性について一定の仮説が出てきている。これを一層深めるために、より集住度の高い豊橋市のA団地の住民への調査をおこなった。

第1節 A団地の位置と概要

豊橋市は、愛知県の南東部に位置し、東を静岡県浜松市と接している¹⁾。本稿でとりあげるA団地は愛知県営の大規模集合住宅である。豊橋市の中心から北東に位置し、静岡県湖西市にも近く、この団地の住民のうち多くの外国人は、湖西市にも通勤している。団地の立地するA校区は、住民基本台帳によると世帯数は5,161世帯、総人口は13,917人である。外国人登録者数は1,475世帯、総人口は2,912人であり、外国人比率は17%と豊橋市でも最も高い比率を占めている校区である（2007年10月1日現在）。このA校区に位置するA団地は、入居戸数652世帯、うち日系南米人が245世帯で、日系南米人戸数割合は37.58%と、約4割弱を占めている（2005年4月現在）。豊橋市には外国人が多く集住する公営住宅が他にもあるが、このA団地の外国人世帯は、豊橋市の公営住宅の中で最も多く、また集住率も高い方である。A校区には、A小学校があるが、この小学校の全児童数は1,018人、うち外国人児童数107人、外国人児童数割合は10.50%であり（2005年現在）、A校区の外国人集住率の高さを反映しているといえよう。

第2節 A団地の町内会の概要

第1項 町内会の役員・選出と運営費

A団地について、概要を述べる。以下では2006年に実施した豊橋市の町内会長全員への質問紙調査のA町内会長の回答部分（回答1）、同じく2006年にA町内会長へ個別にヒアリング調査をした結果の回答部分（回答2）、そして、2007年にA団地の日本人住民全体におこなった質問紙調査の回答部分（回答3）をもとに述べる。

A団地の町内会（自治会）は、町内会加入率は100%である。ここ10年、加入世帯は、ほぼ変わらない。

団地町内会の役職は、会長（1名）、副会長（3名）、会計（2名）、書記（1名）、その他専門委員²⁾からなる。特徴的な専門役員として国際交流部があり、これには外国人住民があたっている。外国人住民は、副会長にも選出されたこともあるし、日常的に通訳、翻訳にもあたる。役員の選出は、会長が全構成世帯の選挙により選出されたのち、副会長や他の役員、専門委員は会長が依頼する。組長は特に決まっていない。

A団地の町内会は、町内会費³⁾のほかに、収入源として、(1)資源回収が年間10万円程度。(2)月1回行われる清掃の出不足料(2,000円)が年間200万円程度。(3)駐車場の管理業務費⁴⁾の3つが運営費の柱であるという。集会使用料なども若干ある。町内会の共有財産としては、団地の入り口近くに集会所・会館があり、頻繁に利用されている。

第2項 共同作業、行事への参加

共同作業は、上記のように、各自の居住棟の周辺部と共有の集会所・公園などの清掃を毎月1回実施する。2005年度1年間の町内会活動のうち、もっとも多くの住民が参加した活動や行事としては、納涼祭、餅つき大会、防災訓練などで、延べ2,000人ほどの参加があった。町内会長によると、「現在特に力を入れている活動」は、「外国人居住者との交流」「防犯・防火・衛生活動」「防災講習・訓練活動」であるという。同時に、「現在、とりわけ重要な問題・課題と思われる」問題は、「外国人との共生」「青少年健全育成」「ゴミ減量」であるという(回答1、2)。外国人居住者との関係が重要視されていることが明らかである。共同作業については、外国人住民も参加しており、手伝いへの意識も高まっていると思われる。

第3項 外国人住民への対応

ここで外国人住民への対応については、町内会長によると、A団地では、日常的に「町内会の活動に参加するように積極的に働きかけている」が、同時に「規約をはじめ、諸事、ポルトガル語に翻訳し、情報の共有に努め」ているという。この時、外国人住民の中から選ばれている国際交流部の役員や翻訳・通訳の協力者が活躍している。「外国人の居住者に対して、特に配慮している点や困っている点」については、「言語、文化、慣習の違いには双方の住民がとまどっています。双方が相互の言葉で『あいさつ』をする運動を展開中。さらに外国人に対するよろず相談の開設など、外国籍者を対象にハローワーク説明会など」と幅広い活動をしている。

A会長自身の目から見ると、町内会活動や行事は「活発である」(回答2)。特に外国人居住者が多く参加する活動・行事はないが、行事の中で、外国人居住者と日本人住民との交流はうまくいっているという。これらの活動や行事に参加してもらうための働きかけを、特に外国人居住者向けにしていることは、パンフレットの作成、各組にある掲示板、さらに集会所の横にある中央掲示板などで周知させることである。

日本人だけのイベントは原則ない。すべてのイベントも全員参加である。「地道な日頃の働きかけがあって、ブラジル人の方も参加する。ラジオ体操の役員もやる。防災訓練も積極的にやる。環境美化も。花壇の整理も積極的におこなう」(回答2)。

第4項 外国人住民との日常的なつきあい

それでは、外国人住民との日常的なつきあいについては、どのように認識されているのであろうか。「これまでに日本人居住者から外国人居住者に関することで相談を持ちかけられたことがありますか」との質問には、騒音問題(音量、夜間)と、文化・国民性のちがいがあるということである。他方「外国人居住者から相談を持ちかけられたことがありますか」については、あまりなく、生活する上での行政や銀行からの文章を読んだり理解したりするための相談などがあつた程度である。

第5項 A団地の評価

外国人居住者が「この地域に住むようになって良かった点」は、会長自身は外国人について「知ることができてよかった」が、「他の人はあまり無いと思う」（回答2）。逆に「戸惑った点や困った点」は、「ことばの問題」であり、これは「いつまでも解決がつかない」問題であるとのことである。

「豊橋市で、日本人と外国人はどのような関係でしょうか？」という質問に対しては、①「別々に暮らし、交流がないという『住み分け』の状況がすすんでいるでしょうか」と②「それとも、外国人とうまくやっているという感じでしょうか？」について、「この団地は②、他は①」と答えている（回答2）。

「豊橋市は、ご自分の目から見て、実際のところ、共生が実現しているとお考えですか。実現している場合、どういった点でそう感じますか。していない場合、原因・障害は何であると感じますか。そして障害を克服するにはなにが必要だと考えますか。」については、「共生は登山でたとえれば、靴、用具などを用意している段階」とのことである。自治体などに対する要望は「山ほどある」。「自治体は『がんばってください』『大変ですね』としか言わない。」

「人が増えたから難しくなっていくのか、という私はそのようには考えません。下敷きがある程度できてくれば、あとはそのブラジルの方々が、他のブラジルの方へのその橋渡しをして、教えてくれる。いろんなことで浸透性は最初の十分の一のほうが難しかったと思います。数が増えたから大変になったという話ではない、と思います。ただ、人が増えた分については、新たな問題は増えてきますけど、対処は十分の一より楽だと思います。ただ最重要課題のひとつであることは間違いない」（回答2）。

以上、町内会長の意見は概ね、以下のようにまとめられよう。①町内会としては外国人住民に対して、常に行事への参加など積極的に働きかけている。「日本人だから」、とか「外国人だから」といって、対応が異なるということはない。②外国人住民に対して、役員の就任も依頼している。特に国際交流部員や翻訳、通訳などの専門部員は重要な戦力となっている。③町内会の共同作業などには、外国人住民も参加している。④この団地の中では、外国人住民と日本人住民との関係はうまくいっている、と認識している。

第2章 豊橋市A団地に住む日本人住民の意識

第1節 本分析で求める視点

さて、これまで、小内透らは、群馬県大泉町調査(1999年、2005年)、豊橋市調査(2006年)、浜松市調査(2007年)などを実施してきた。飯田、濱田の研究(飯田 2007、濱田 2007)によると、ともに外国人集住率の高い愛知県豊橋市と群馬県大泉町との比較では、外国人との交流で顕著な差がみられる⁵⁾。

大泉町と豊橋市全体の分析と対比するために本稿で求められる分析は、①大泉町と豊橋市との集住の違いは、大泉町は町全域に外国人が居住している。豊橋市では全域的に集住しているのではなく、公営住宅に外国人が集中している。そこでは、公営住宅であるA団地では、日本人住民と外国

人住民との交流（接触）の傾向が大泉町や豊橋市全域とは異なるのか。②A団地では、外国人との交流はどのような傾向にあるのか。それは他地域と異なるのか。③A団地のような集住率の高い地域では、「大泉町的な状況」が発生するのか。④町内会の活動（住民本人の活動の積極性、外国人が活動に参加することへの意識、外国人への活動の勧誘、役員就任への意識など）について、A団地独自の傾向があるのか。A団地に住む一般住民はどのような考えや意見を持っているか。あるいは行動をしているのか。以上を、2007年に実施したA団地日本人住民調査の結果から概観してみよう。

第2節 外国人住民との交流

第1項 外国人住民との交流

まず、A団地では、外国人との交流の程度によって、外国人に対する体感治安に有意な差があるのかを調べる。交流の程度は、「あなたは、ご近所で外国人とどの程度、交流をしていますか。」に対して、「1 外国人とのつきあいはない」（17.2%）、「2 道で会えば、あいさつをかわす程度」（61.7%）、「3 会った際に世間話をする程度」（18.9%）、「4 一緒に外出する（買い物、行楽、スポーツなど）」（2.2%）（N=180）であった（表1）。「外国人とのつきあいはない」はわずかに17.2%であり、「会えば挨拶をかわす」が大部分を占めるが、それ以上のつきあいもし、全体として82.8%はなんらかの交流があることが明らかになった。

表1 外国人との交流
「あなたはご近所で外国人とどの程度交流をしていますか。」

1 外国人住民とのつきあいはない	17.2(31)
2 道で会えば挨拶をかわす程度	61.7(111)
3 会った際に世間話をする	18.9(34)
4 一緒に外出する（買い物、行楽、スポーツなど）	2.2(4)
合計	100%(180)

第2項 日本人住民との近隣交際

比較のために日本人住民との近隣交際についての頻度をみしてみる。「あなたは、普段ご近所の人たちと、どのくらい交流を行っていますか」に対して、「1 近所の住民とつきあいはない」（2.7%）、「2 道で会えばあいさつをかわす程度」（51.1%）、「3 会った際に世間話をする」（44.0%）、「4 互いの家をよく行き来する」（2.2%）（N=184）であった（表2）。「近所の住民とのつきあいはない」は2.7%であり、「会えば挨拶をかわす」がやはり51.1%を占め、それ以上のつきあいをふくめると、全体として97.3%が何らかのつきあいをしている。そして、日常的に日本人と近隣交際をしている人と、外国人との交流をしている人は有意に差がある。つまり、日本人との近隣交際をしない人は、外国人住民とも交流をしない。また日本人との近隣交際で低いレベルの交流しかしない人が、外国人に対してそれ以上のレベルの交流をすることはないようである（表3）。

表2 日本人との近隣関係
「あなたは、普段ご近所の人たちとどのくらい交流をおこなっていますか。」

1 近所の住民とのつきあいはない	2.7(5)
2 道で会えば挨拶をかわす程度	51.1(94)
3 会った際に世間話をする	44.0(81)
4 互いの家をよく行き来する	2.2(4)
合計	100%(184)

表3 近隣との交際程度と外国人との交流の程度のカロス表

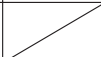
			外国人との交流の程度				合計
			1 つきあいは ない	2 挨拶程度	3 世間話程度	4 一緒に外出	
近隣との交際程度	1 つきあいは ない	度数	3	1	0	0	4
		総和の%	1.8%	.6%	.0%	.0%	2.4%
	2 挨拶をする 程度	度数	19	61	8	1	89
		総和の%	11.2%	36.1%	4.7%	.6%	52.7%
	3 世間話をす る程度	度数	8	41	22	1	72
		総和の%	4.7%	24.3%	13.0%	.6%	42.6%
	4 互いの家を 訪問する程度	度数	0	1	2	1	4
		総和の%	.0%	.6%	1.2%	.6%	2.4%
合計		度数	30	104	32	3	169
		総和の%	17.8%	61.5%	18.9%	1.8%	100.0%

 $\chi^2=0.00$

第3項 他地域との外国人住民との交流の比較

それでは、このA団地の外国人住民との交流を他地域での調査結果と比較してみる。A団地には、他地域よりも外国人が日常的に目に入ってくる状況で、密度の高い交流があると思われる。実際に、「外国人とのつきあいはない」は17.2%で他の地域と比較して最も低く、また「挨拶を交わす程度」以上のつきあいは、他の地域と比較してもっとも高い。つまりかなり濃密な交流があるということである（表4）。

表4 近隣レベルにおける外国人との交流

	①外国人は いない	②外国人と のつきあひ なし	③挨拶を交 わす程度	④会った際 に世間話を する	⑤互いの家 を行き来す る	合計	③+④+⑤
1999年 大泉調査	104 23.60%	241 54.60%	82 18.60%	10 2.30%	4 0.90%	441 100%	21.80%
2005年 大泉調査	102 19.10%	222 41.50%	173 32.30%	30 5.60%	8 1.50%	535 100%	39.40%
2006年 豊橋調査	219 47.50%	156 33.80%	69 15.90%	12 2.60%	5 1.10%	461 100%	18.70%
2007年 浜松調査	183 36.40%	202 40.20%	96 19.10%	17 3.40%	5 1.90%	503 100%	23.50%
2007年 団地調査		31 17.20%	111 61.70%	34 18.90%	4 2.20%	180 100%	82.80%

出典：小内透作成に、都築が一部改変

※1 小内透・濱田国祐・菊池千夏『調査と社会理論22 地域住民の外国人との交流・意識とその変化』北海道大学大学院教育学研究科教育社会学研究室、2006年および濱田国祐「外国人住民に対する日本人住民意識の変遷とその規程要因」『社会学評論』59(1)、2008年参照。

※2 「2007年団地調査部分」は都築が追加

第3節 団地の変化と体感治安

第1項 団地の変化

次に体感治安に関しては、「あなたは、多くの外国人が居住することで、A団地がどのように変化したとお考えですか。」に対して、各項目を質問した（表5）。どの項目も、やや否定的なイメージを感じている。結果としては外国人とどのような交流をしても、また頻度がどうであれ、体感治安には有意差はなかった。

表5 外国人が居住したことで団地がどのように変化したか
「あなたは、多くの外国人が居住することで、A団地がどのように変化したとお考えですか。」

	とてもそう 思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	計
1 外国人との交流が進んだ	8.3	39.1	41.4	11.2	100(169)
2 外国の文化に触れられるようになった	7.9	24.2	44.8	23.0	100(165)
3 団地がにぎやかになった	20.6	30.9	32.1	16.4	100(165)
4 団地の知名度が上がった	6.1	11.6	45.7	36.6	100(164)
5 団地のイメージが悪くなった	35.1	32.8	21.8	10.3	100(174)
6 治安が悪くなった	35.7	36.3	17.5	10.5	100(171)
7 ゴミ捨てなどの生活のルールが乱れた	44.9	37.5	8.5	9.1	100(176)
8 生活環境が悪くなった	33.9	33.3	23.6	9.2	100(174)

第2項 基本的属性の差によって体感治安に相違があるのか

次に、外国人住民との交流をしている日本人住民は、基本的属性に何か特徴があるのだろうか。外国人との交流において、年代、性別、学歴、職業（職業、職業上の地位など）などの基本的属性によって、外国人との交流の程度に有意差はなかった。また、体感治安にも有意差はなかった。A団地は、大泉町より集住の状況が濃密であり、団地全体に外国人が集住していることで、交流（接触）が日常的におこっているため、日本人住民の基本的属性では有意な差はなかったのではないかと推察される。また、外国人の日常生活を間近にみて、理解を深めているため、外国人との交流の頻度が高くても、体感治安への影響はなかったのではないかと推察される。「大泉的状況」は出現していないのである。これは、次に述べる町内会活動への参加を通して、日常的な交流が頻繁になされている結果であるとも言える。

第4節 何人の外国人と交流があるのか

外国人住民の町内会活動への参加の分析にうつる前に、日本人住民は何人くらいの外国人と交流があるのかを調べてみる。外国人の友人数と面識のある外国人の数を聞いてみた。

第1項 外国人の友人の数

A団地に居住する日本人は外国人の友人を持っているのだろうか。「友人」といえる関係の外国人を持っているのは、「はい」と答えた43人（22.6%）である。外国人の友人は、「同じ棟の中にいる」（22人）、「同じ団地の中にいる」（23人）、「豊橋市にいる」（16人）、「その他にいる」（6人）である（表6）。友人の数は、1人のみならず、複数の友人を持っているということもわかる（表7）。

表6 外国人の友人の有無
「あなたには現在外国人の友人がいますか」

1 はい	22.6(43)
2 いいえ	77.4(147)
合計	100(190)
1 同じ棟の中にいる	32.8(22)
2 同じ団地の中にいる	34.3(23)
3 豊橋市にいる	23.9(16)
4 その他	9.0(6)
合計	100(67)

表7 外国人の友人数

	同じ棟内	同じ団地内	豊橋市内	その他
1 1人	36.4(8)	21.7(5)	43.8(7)	33.3(2)
2 2～9人	63.6(14)	69.6(16)	43.8(7)	66.7(4)
3 10～30人	0(0)	8.7(2)	12.6(2)	0(0)
合計	100%(22)	100%(23)	100%(16)	100%(6)

第2項 面識のある外国人の数

「友人」より少し親密度が低くなるが「面識のある外国人」の有無を聞いてみると、「はい」が123人（67.2%）で、「いいえ」の60人（32.8%）を大きく上回る（表8）。また「面識のある外国人」の数は、「同じ棟内にいる」（100人）、「他の棟にいる」（47人）である。面識のある外国人は複数人おり、「同じ棟」内に「1～5人」いるのは77人（77%）、「6～15人」は23人（23%）、「他の棟」では、「1～5人」いるのは38人（80.9%）、「6～15人」は9人（19.1%）である（表9）。

表8 面識のある外国人の友人の有無

「あなたには現在同じ団地の中に面識のある外国人がいますか」

1 はい	67.2(123)
2 いいえ	32.8(60)
合計	100%(183)
1 同じ棟の中にいる	68.0(100)
2 他の棟の中にいる	32.0(47)
合計	100%(147)

表9 面識のある外国人数

	同じ棟	他の棟
1 1～5人	77.0(77)	80.9(38)
2 6～15人	23.0(23)	19.1(9)
合計	100%(100)	100%(47)

第3項 「外国人の友人数」と「面識のある外国人数」によって、近隣交際の程度に差があるのかそれでは、「外国人の友人の数」、あるいは「面識のある外国人数」によって、近隣交際に差があるのか。分析の結果、「外国人の友人」の有無、あるいは「面識のある外国人」の有無によって有意な差があるが、人数とは有意な差が無いことが明らかになった（表10、表11）。

表10 外国人の友人の有無×外国人との交流の程度

			外国人との交流の程度				合計
			1 つきあいはない	2 挨拶程度	3 世間話程度	4 一緒に外出	
外国人友人の有無	1 いる	度数	4	12	18	4	38
		総和の%	2.3%	6.9%	10.3%	2.3%	21.7%
	2 いない	度数	27	96	14	0	137
		総和の%	15.4%	54.9%	8.0%	.0%	78.3%
合計		度数	31	108	32	4	175
		総和の%	17.7%	61.7%	18.3%	2.3%	100.0%

 $\chi^2=0.00$

表11 団地内の面識のある外国人の有無×外国人との交流の程度

			外国人との交流の程度				合計
			1 つきあいはない	2 挨拶程度	3 世間話程度	4 一緒に外出	
団地内面識のある外国人の有無	1 いる	度数	9	73	29	4	115
		総和の%	5.2%	42.2%	16.8%	2.3%	66.5%
	2 いない	度数	22	33	3	0	58
		総和の%	12.7%	19.1%	1.7%	.0%	33.5%
合計		度数	31	106	32	4	173
		総和の%	17.9%	61.3%	18.5%	2.3%	100.0%

 $\chi^2=0.00$

第4項 知り合った契機はなにか

それでは、日本人住民が外国人住民の人たちと知り合った契機は何だったのでしょうか。第1に「町内会活動を通じて」（43.7%、86人）、第2に「通りがかった際に顔を合わせるうちに」（16.8%、33人）、第3に「子どもを通して」（12.2%、24人）である（表12）。

表12 外国人住民と知り合った契機

「あなたはそれらの方たちとどういきっかけでお知り合いになりましたか」

	いいえ	はい	計
1 ゴミ出しで顔をあわせるうちに	95.4(188)	4.6(9)	100(197)
2 通りがかった際に顔をあわせるうちに	83.2(164)	16.8(33)	100(197)
3 町内会活動を通じて	56.3(111)	43.7(86)	100(197)
4 子どもを通して	87.8(173)	12.2(24)	100(197)
5 学校関係で知り合った	95.4(188)	4.6(9)	100(197)
6 日本人の住民を通して	97.5(192)	2.5(5)	100(197)
7 外国人の住民を通して	97.5(192)	2.5(5)	100(197)
8 仕事を先を通じて知り合った	89.8(177)	10.2(20)	100(197)
9 その他	91.4(180)	8.6(17)	100(197)

第5節 町内会活動への参加

それでは、日本人住民と外国人住民が、知り合う契機として最も頻度が高かった町内会活動について見てみよう。

第1項 日本人住民の町内会活動参加

日本人住民自身の町内会活動については、「あなたは、団地自治会の活動や行事に参加なさっていますか」（表13）という質問に対して、「1 積極的に参加している」（14.3%）、「2 ある程度参加している」（52.9%）、「3 あまり参加していない」（25.4%）、「4 まったく参加しない」（7.4%）（N=189）であり、約67%の住民が町内会活動に参加している。この町内会活動に対しては、世代、性別、学歴、職業などの基本的属性によって、有意な差はなかった。なお、自治会活動への参加をする人は、外国人との交流の程度との有意な差はあった。

第2項 日本人住民は外国人住民の町内会活動参加をどう認識しているのか

次に外国人住民が町内会活動をしているかどうかの認識を問う、「近所に住んでいる外国人は、町内会の活動や行事に参加していますか。」（表14）について、「1 多くの外国人が参加している」（22.5%）、「2 ある程度の外国人が参加している」（62.6%）、「3 外国人はあまり参加していない」（12.1%）、「4 外国人はまったく参加していない」（2.7%）（N=182）と答えている。外国人住民に対して、85.1%の日本人住民が「外国人は町内会活動に参加している」と認識している。

第3項 日本人住民は外国人住民の町内会活動参加にどのような意見を持っているのか

次に日本人住民は外国人住民が町内会活動をするに対してどのような意見を持っているのだろうか。「近所に住む外国人は町内会の活動に参加した方が良いでしょうか」（表15）という意見については、「外国人も積極的に参加したほうが良い」（51.4%）、「ある程度参加した方が良い」（33.5%）の合計84.9%が、参加した方が良いと認識している。ここで、自らの町内会活動参加動向と外国人住民の参加希望をクロスしてみると、有意な差が認められた。

さらに、町内会へ未加入の外国人への意見（表16）は、「外国人も町内会に加入すべきだ」（63.1%）と考える人が最も多く、「個人の意志にまかせればよい」（33.2%）がこれに次ぎ、「町内会に加入する必要はない」（3.7%）と考える人はわずかである。

第4項 役員への就任

それでは、日本人住民は外国人も役員に就任した方が良いと思っているのだろうか。「外国人の方も、町内会の役員を務めた方が良いでしょうか」（表17）について「外国人も積極的にやった方がよい」（42.1%）、「外国人もある程度やった方がよい」（46.3%）と、「やった方がよい」と考える人が88.4%と、かなり多くの人が、外国人住民が役員に就任することを望んでいる。「外国人の意志にまかせるのがよい」（7.4%）、「外国人にはやってほしくない」（4.2%）はわずかである。自らの町内会活動の参加動向と有意な差はない（表18）。

こうした外国人住民の町内会活動に対しての日本人住民の意見は、基本的属性（年代、性別、学歴、職業）によって有意な差はない。また、「外国人の友人」を持っているか否か、あるいは「団地内に面識のある外国人」がいるか否か、にも有意な差がなかった。

以上から、次のことが言えよう。A団地の日本人住民は、町内会活動に関しては、基本的属性に関係なく、行事へ積極的な参加を望んでおり、役員への就任も望んでいる。また、多くの外国人が町内会の活動や行事に参加していると認識している。これらは、上で町内会長が述べた事実と一致している。A団地は、町内会活動に関しては積極的な姿勢で外国人の参加を望み、勧誘していると言える。そしてそれゆえに、多くの日本人住民と外国人住民が、「出会う」場となり、それが「友人」や「面識のある人」という関係性につながっていくのである。

表13 町内会活動への参加

「あなたは団地自治会の活動や行事に参加なさっていますか」

1 積極的に参加している	14.3(27)
2 ある程度参加している	52.9(100)
3 あまり参加していない	25.4(48)
4 まったく参加していない	7.4(14)
合計	100(189)

表14 外国人の町内会の活動や行事への参加

「近所に住んでいる外国人は、町内会の活動や行事に参加していますか。」

1 多くの外国人が参加している	22.5(41)
2 ある程度の外国人が参加している	62.6(114)
3 外国人はあまり参加していない	12.1(22)
4 外国人は全く参加していない	2.7(5)
合計	100(182)

表15 外国人の町内会参加への意見

「近所に住んでいる外国人は、町内会の活動に参加した方がよいでしょうか。」

1 積極的に参加した方がよい	51.4(95)
2 ある程度参加した方がよい	33.5(62)
3 意志にまかせるのがよい	12.4(23)
4 参加してほしくない	2.7(5)
合計	100(185)

表16 町内会未加入の外国人に対する意見

「町内会に加入していない外国人が存在することについて、どう思いますか」

1 外国人も加入すべき	63.1(118)
2 個人の意志にまかせればよい	33.2(62)
3 町内会に加入する必要はない	3.7(7)
合計	100(187)

表17 外国人の町内会役員就任についての意見

「外国人の方も、町内会の役員を務めた方が、よいでしょうか」

1 外国人も積極的にやった方がよい	42.1(80)
2 外国人もある程度やった方がよい	46.3(88)
3 外国人の意志にまかせるのがよい	7.4(14)
4 外国人にはやってほしくない	4.2(8)
合計	100(190)

表18 自治会への活動の態度×外国人の町内会参加への意見

			外国人の町内会参加への意見				合計
			1 積極的参加	2 ある程度参加	3 意志にまかせる	4 参加してほしくない	
自治会活動への参加	1 積極的参加	度数	19	5	1	1	26
		総和の%	10.6%	2.8%	.6%	.6%	14.4%
	2 ある程度参加	度数	52	34	12	0	98
		総和の%	28.9%	18.9%	6.7%	.0%	54.4%
	3 あまり参加しない	度数	15	19	7	3	44
		総和の%	8.3%	10.6%	3.9%	1.7%	24.4%
	4 まったく参加しない	度数	7	2	2	1	12
		総和の%	3.9%	1.1%	1.1%	.6%	6.7%
合計		度数	93	60	22	5	180
		総和の%	51.7%	33.3%	12.2%	2.8%	100.0%

 $\chi^2=0.036$

第6節 小括

大泉町では、外国人は町全体に居住しており、豊橋市では、公営住宅など大規模集合住宅に集住している。この居住形態の違いが、一般の日本人住民と外国人住民との接触や交流に差異をもたらしていると言えよう。高密度に外国人が集住しているA団地では、町内会の日常的な活動参加勧誘があり、それを契機に日常的に対面的な関係が形成されているといえる。

日本人住民は、「友人」や「面識のある外国人」を複数もっており、外国人との交流をおこなっている。そしてその交流のレベルは、基本的属性による相違ではなく、友人や面識のある外国人を持っているか、否かによる。外国人との交流において、年代、性別、学歴、職業などの基本的属性によって、程度に有意差はなかった。また、体感治安にも有意差はなかった。大泉町より集住の状

況が濃密であり、団地全体に外国人が集住していることでいやおうなく、交流（接触）が日常的におこっているため、本来ならば、「大泉的状况」が出現する可能性は高いが、おそらくその状況を町内会活動やそれから付随する日常的な近隣交際で、相互に理解を深め、乗り切ったのであろうことが予想される。集住当初の、「大泉的状况」下では、混乱があったであろうが、町内会役員たちの献身的な努力や国際交流委員をつくるなど積極的な活動、そして町内会活動への参加呼びかけなどにより、それを脱し、排除にむかわなかったのであろう。日本人住民と外国人住民との関係は対面的で、相互に「面識のある」関係が形成されており、日常的な交流により理解を深めているので、外国人との交流の頻度が高くても、体感治安への影響はなかったと言える。

注

- 1) 岡田（2008：20）参照。
- 2) 「A団地自治会規約」（昭和56年頃作成）によると、「三役以下、総組長（16名）、環境美化（12名）、子供会（8名）、社会体育（5名）、運転者協会（兼・防犯 16名）、社会教育（2名）、国際交流部（6名）、更正保護女性会（2名）、集会所管理委員（2名）、書記（1名）を役員とする」とある。また規約上は副会長は3名となっているが、現行は4名で実働しているようである。また規約では、協力員という名称の委員があるが、これは「三役以外の役員につき会長が必要と認めた部門について若干の協力員を委嘱することができる、ただし報酬は支払わない。」による。会計監査についても、2名おき、決算期に監査を行う。「監査員は会長が委嘱し役員で承認の上組長会で決定の上任命する」「但し役員はその任には就けない」。運転者協会とは、「自治会員が利用する駐車場の円滑な管理運営を以て契約者の利便を図り迷惑駐車防止等安全対策を行い自治会活動に貢献する」ことを目的とし、契約者から招集する駐車場使用料及び来訪客用一時貸し料金、新規入会金、車庫証明書発行手数料等で賄い運営する」と規約にある。この使用料等が自治会運営費として貢献している。同時に「運協」は、防犯の任も負う。
- 3) 自治会費は、規約によれば、月に1,000円となっているが、現状は700円で実施しているようである（2007年実施の質問票調査への町内会長の回答）。「公共料金、保守管理費、年間行事費を勘案の上」均等割（戸数割）で決定しているようである。1世帯月700円として、 $700（円） \times 12（ヶ月） \times 670（世帯） = 5,628,000円$ の計算となる。資源回収は毎月第3日曜日（午前8:30～8:45）におこなわれる。清掃も月1度（第3日曜日の午前8:30～9:15）おこなわれ、出不足料も外国人住民によく周知されているそうである。
- 4) 「駐車場は、団地内だけでは手狭なため、外郭に道路をはさんだ向こう側に3カ所、地主さんと契約して借地で駐車場管理をしている。この駐車場の賃料から地主さんへの土地の賃貸料を払ってね、残りは収入。これで補修をしたり、いろんな事に使う。」（2007年実施の質問票調査への町内会長の回答）。
- 5) 飯田（2007）。同じく濱田（2007）。

参考文献

- 濱田国佑, 2007, 「外国人集住地域における日本人住民の意識——地域間比較を通して——」(第55回北海道社会学会大会一般報告発表レジュメ).
- 飯田俊郎, 2007, 「外国人集住地域における日本人住民と外国人住民の交流——地域間比較を通して——」(第55回北海道社会学会大会一般報告発表レジュメ).
- 岡田朋子, 2008, 「豊橋市の概況と外国人支援策」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書25 外国人集住地域における日系ブラジル人の教育と保育』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室:20-5.